



# 舞台でも使えそうな照明

新しい仕事を始めてから、早3カ月の見習い期間が終わり、正式に社員として働き始めました。まだまだ覚えることは山ほどあります。どのメーカーが、どのような機材に強く、プロジェクトのスタイルに合わせて使えそうな、ユニークでフレキシブルな機材を作っているかなどは、実際に機材の効果を間近で目にしないとわからないものです。この会社の魅力的なところは、常に新しい機材に触れられるところです。毎2週の火曜日のランチタイムに、メーカーが機材サンプル(と私たちへの差し入れランチ♡)を持って、デモンストレーションに来てくれるところです。食べながら、メーカーのお話を聞くなんて、失礼極まりない!と思われるかもしれませんが、締め切りに追われる日々の慌ただしいスタジオと、機材セールスしたいメーカー、双方の了解下で行われているので問題ないようです。

すでに7メーカーほど見せていただきましたが、その中で印象に残ったもので、舞台照明でも使えそうな照明をご紹介します。その前に余談ですが、建築・環境照明の業界では、もうタングステン/白熱電球は一切目にしません。皆さんもご存知かもしれませんが、ヨーロッパでは2018年9月から、白熱・ハロゲン電球の販売が禁止になり、LED変換への面舵を切りました。現在、公共道路照明の管轄がある英国市町の70%は、彼らの地域の電灯をソディウムからLEDに変換しているそうです。例えば、町ほぼすべての電灯をLEDに変換したPlymouth市は、初めての工事費は多大だったそうです

が、毎年1.8億円近い光熱費を節約し、6千トンの炭素排出量削減に成功したそうです。まだLED変換に乗り出せていない市は、初めての工事費を貯める時間が必要だそうです。舞台業界で働いていた頃、照明と環境に対する繋がりをそこまで深くは考えていませんでしたが、考えざるを得なくなったのは、街設計プロジェクト等に関わるようになってから、そして地球温暖化の現象を、肌で感じるようになったここ数年でしょうか。とはいえ、舞台照明家に電気節約を期待するのは違うと思うし、画家に絵の具を節約するよう促す人はどこにもいません。なにせ目的が違いますから。

そんな話は置いておいて、舞台照明に使えそうな、最近出会った建築・環境照明のご紹介をしたいと思います。初めてのメーカーはRoblon Lighting(デンマーク/日本にもサプライヤーあり)です。彼らのオプティカル・ファイバーシリーズは、壁等に埋め込む/据え付けるタイプのスポットや、デコレーショングラスです。スポット自体にLEDチップが付いているのではなく、ライトジェネレーター、以降LG(実際に光を出力するボックス)からスポットまで、ファイバーオプティックケーブルを使って光を走らせる仕組みです。ですので、水の中はもちろん、手の届きにくい場所にスポットを配置し、LGさえ、手の届くところに配置すればメンテも簡単です。スポットだけでなく、ファイバーケーブル自体を照明ソースとしてみせる演出も可能です。走らせるファイバーの距離は、選ぶファイバーケーブルやLGにもよりますが、75w~150w

で15m~35mまでいけるそうです。DMXでもDALIでも光量コントロールでき、色度を調節できる白か、色を入れたい場合は、6色まで好きな色を選べます(付属モーター

スクローラー)。「RGB mixできるものを今後作りますか?」とメーカーに質問したら、「光量を落とさたくないで、実験の結果、それは今のところ作らない予定です」とご返答いただきました。

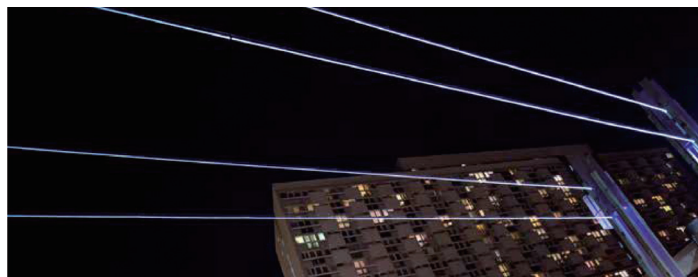
次にご紹介したいメーカー/機材は、Forma Lighting(イタリア/香港でも取り寄せ可)のMOTOLUXというシリーズで、壁に埋め込める、またはギャラリー等で使うトラックに装着できるミニチュアムービングスポットです。トラックには直電だけ走らせて、トラック内の好きなところに吊れます。吊った位置から電動移動できたら、もっと魅力的で面白いと思うのですが、あいにく吊った位置からは自動移動できません。どなたか、作ってください!指サイズ(ズームなし)~手のひらサイズ(ズームあり)のこのスポットは、Bluetoothで操作できます(大体10m距離限度)。彼らが提供するアプリで携帯から操作もできるし、トランスミッターにDMXでデータを送ることもできると聞きました。モーターの動く音は少しおもしろいですが、狭いスペースにこっそり仕込むには、ちょうど良いかもしれません。

最後にご紹介したいメーカーは、デコレーション照明のみならず、灯体は小さくともパワフルでデリケートな照明を作っているMIKE STOANE(イギリス)です。我々の会社も、頻繁にこのメーカーの照明を使っています。中でも、細パイプの中に仕込めるミニスポットや、LEDストリップ照明をはじめ、植物ポットなどに使えるデコレーション照明など、幅広い機材を扱っているメーカーです。デザインに合わせてカスタムメイドもしてくれます。

LEDテープライトは、舞台照明でも頻繁に使われるようになって来ましたが、おそらく日本にも沢山のメーカーがLEDテープを取り扱っていると思うので、今回はあえてLEDテープのお勧めはしません。最近思うのは、舞台照明に比べ、建築照明はメーカーの数が膨大なので、毎日のように新しいメーカーの名前を耳にします。まずは主流のメーカーを把握し、慣れてきたら掘り出し物も探してみたいと思います。



Forma LightingのMOTOLUX



Roblon Lightingのファイバーケーブル演出